急性膀胱炎－猪苓湯

文献

井齋偉矢.急性膀胱炎に対する洋漢併用療法による治療効果と経済効果.日本東洋医学雑誌 2000: 50(6): 195.

1.リサーチクエスチョン（research question）

急性膀胱炎の患者の治療を目的とした、猪苓湯投与による洋漢併用療法の費用対効果を、西洋薬の抗菌剤のみの療法を対照とした費用結果分析法により評価する。
分析の立場 ： 記載なし（医療費支払者？）

2.対象集団と介入（interventions）

対象集団 ： 急性膀胱炎と診断された 11 名の女性患者の症例集積（平均年齢：66.3±6.1 歳）
介入群　：11 名の症例集積（レボフロキサシン（100mg 錠）を 1 回 1 錠、1 日 3 回、2 日間と猪苓湯を 1 回 2.5g、1 日 3 回、7 日間併用）
対照群　：介入群と同じ集団に西洋薬のみを投与した仮想群（レボフロキサシンを 5~7 日投与）

3.セッティング（location/setting）

日本、詳細は不明

4.方法（methods）

・コ　ス　ト :直接コスト（薬剤費のみ）。データ収集期間は 1999.3-1999.10。
・アウトカム ： 治癒率。データ収集期間は 1999.3-1999.10。
・割　引　率 ： 記載なし。

5.結果（results）

	コスト（JPY）	アウトカム	
	薬剤費/1 人 （介入群との差分）	2 日以内に 症状消失割合	7 日後の 治癒割合
介入群	2,528.7	10/11	10/11
レボフロキサシン （5 日間投与）	3,723.0 (-1,194.3)	-	-
レボフロキサシン （7 日間投与）	5,212.2 (-2,683.5)	-	-

・介入群において、膀胱炎症状は 1 例を除き 2 日以内に消失した。また、7 日後の尿定量培養結果によって 1 例を除き全部治癒した。抗菌剤の投与を 2 日間にするのは妥当である。

6.著者の結論（authors' conclusions）

・急性膀胱炎の洋漢併用療法は、治療効果、経済効果の両面からみて、有用と考えられた。

7. Abstractor のコメント

・著者は症例集積の評価を行い、急性膀胱炎に対する猪苓湯投与によって薬剤費を削減する可能性を示唆した。
・対照群が仮想されたから、レボフロキサシンのみの療法のアウトカムに関する情報が不足である。対照群をきちんと設置する臨床研究から得られるアウトカムに関するエビデンスを明示する必要がある。

8.　**Abstractor and date**　唐/五十嵐　2012.3.5